

平成26年ホヤ類調査結果速報 No. 1

平成26年7月30日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

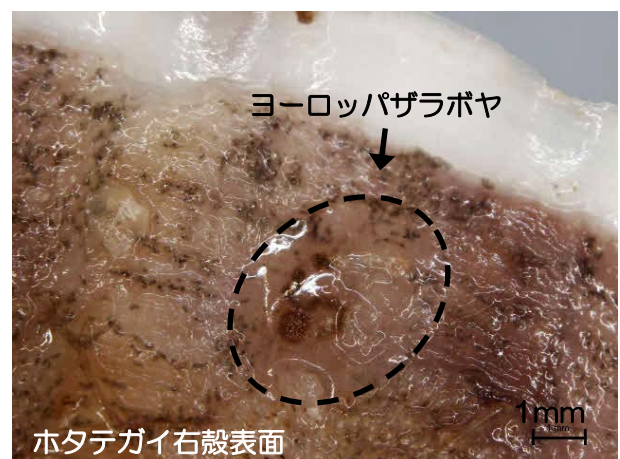
【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

7月24日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上に、今年初めてヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1）。付着しているヨーロッパザラボヤの平均体長は3.2mmでした。また、肉眼では識別できない個体为中心です（図2）。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり9.4個体とそれほど多くありませんが、7～8月にかけて増加すると見込まれます（表1、図3）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生の出現も確認されました（図4-2）。今後、浮遊幼生の出現数増加が見込まれます。
- ヨーロッパザラボヤは、付着期間が長期化すると個体数が急激に増加し、大量付着が発生します（図3）。今後の水産試験場や水産技術普及指導所の調査結果に注意してください。

図1 耳吊ホタテガイ（左）とヨーロッパザラボヤ（右）平成26年7月24日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL：0138-83-2893 FAX：0138-83-2849

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月24日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。今年初めてヨーロッパザラボヤの付着が確認されました(図1、表1)。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ1枚あたり9.4個体、平均サイズは3.2mmと微小な個体が中心です(図2)。昨年と比較するとやや多い結果ですが、今年と同様に下旬に調査が行われたH23とはそれほど差はありません。今後、付着個体数は増加し、9月頃から付着重量も増加すると考えられます(図3)。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：平成26年7月24日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	13.3g	12.8g	5.4g	10.5g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.6g	0.3g	0.3g
その他	13.3g	12.2g	5.1g	10.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	2.4個体	11.0個体	14.8個体	9.4個体
平成25年7月(H25.7.16)の個体数	0.0個体	2.0個体	6.6個体	2.9個体
平成24年7月(H24.7.17)の個体数	0.4個体	0.8個体	1.6個体	0.9個体
平成23年7月(H23.7.27)の個体数	12.2個体	6.4個体	4.8個体	7.8個体

図2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：平成26年7月24日)

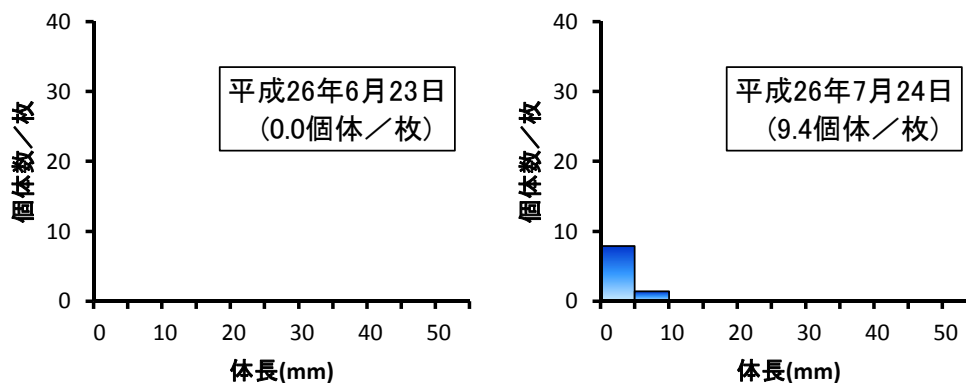
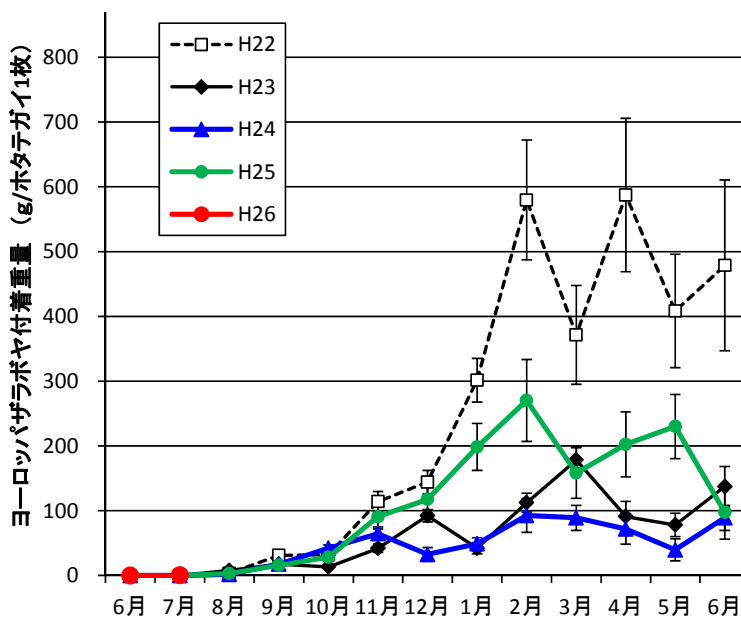
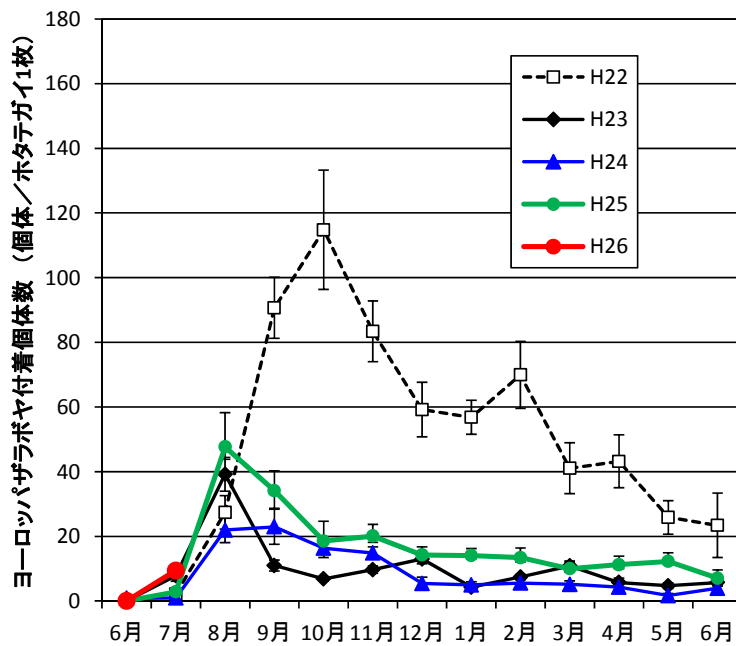


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。H22～H25 はいずれも7月からホタテガイへの付着が本格化しています。H22は付着期間が長期化し、ホタテガイ1枚あたり100個体を超えました。H23～25の付着期間は比較的短く、ホタテガイ1枚あたりの付着個体数は最大20～50個体でした。その結果、H22は冬季（収穫期）に付着重量が急増したのに対して、H23～H25の付着重量の増加は緩やかでした。今後、H22のように付着期間が長期化するかどうか、特に注意する必要があります。

2：浮遊幼生調査結果

2-1. 八雲地区（八雲漁港沖合）調査結果

〔調査月日：平成26年7月24日、調査場所：八雲沖水深17m、水深32m、水深40m〕

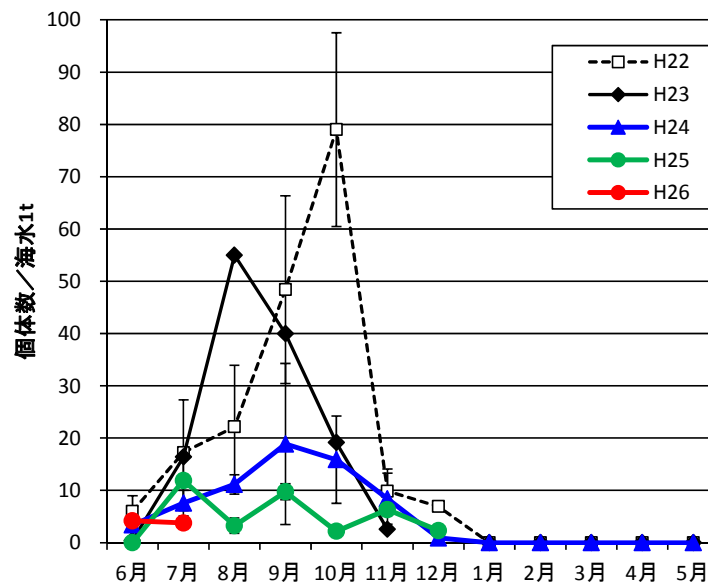
ヨーロッパザラボヤの幼生(図4-1)は3地点の平均で海水1tあたり3.8個体でした(図4-2)。先月(6月23日)の調査では、海水1tあたり4.2個体でしたので、浮遊幼生密度は、ほぼ横ばいです。過去のデータから、今後、浮遊幼生密度が増加すると見込まれます。

図4-1.ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約14時間で孵化します。図4-1は20℃条件で受精から22時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温20℃の条件で、孵化から6時間後(受精から20時間後)には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図4-2.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）



(参考) 噴火湾の「ザラボヤ」について

平成20年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ(通称「ザラボヤ」)は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法等については、北海道立総合研究機構水産研究本部HP(<http://www.fishexp.hro.or.jp/>)に公表されている以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—(試験研究は今 No.707)
- ・金森誠：外来種ヨーロッパザラボヤの道内の分布について(試験研究は今 No.731)
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について(北海道水産試験場研究報告81：151-156)